

今週のメニュー

■トピックス

◇消費者団体とのプラスチック懇談会に参加

■随想

◇マラウイ共和国旅行記（7）－環境－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■編集後記

■トピックス

◇消費者団体とのプラスチック懇談会に参加

3月3日、プラスチック工業連盟の広報委員会は、5年ぶりに消費者団体とプラスチックに関して懇談会を開催しました。2004年から2010年まで毎年開催してきた消費者団体との懇談会でしたが、特定のテーマについてある消費者団体とコラボレーションを行ったことはあるものの、ここしばらく、複数の消費者団体との懇談会は開催されておられませんでした。塩ビ工業・環境協会も広報委員会のメンバーとして、懇談会に参加し消費者団体の皆様とコミュニケーションを図りました。



懇談会の様子

懇談会では、直近の調査である2012年の「プラスチックのイメージ調査」の結果紹介や、中学校の理科でプラスチックが取り上げられるようになったことに伴う出前授業の取り組み状況、食品用プラスチック容器包装の利点について、広報委員会からプレゼンが行われたほか、容器包装の製造実例として真空成形装置を使ったプラスチックシート形成のデモンストレーションが行われました。

真空成形とは、薄いプラスチックフィルムをヒーターで暖め柔らかくなったところで、ABS製などの金型に押しさえつけ、金型に開いた小さな穴から空気を抜くことにより、プラスチックフィルムが金型に沿った形に成形されるという成形方法です。その真空成形の実演では、[A-PET](#)や[PLA\(ポリ乳酸\)](#)、[発泡PS](#)など、材料により加熱時間を微妙にコントロールすることや、A-PETの成形において、加熱時間がわずかに違うだけで白濁してしまうことやその理由（高温で結晶化しやすい）の説明に興味深く聞いておられました。



小型の真空成形装置を使った
デモンストレーション

一方、広報委員会の活動内容の説明後のQ&Aのコーナーでは、「プラスチックがこんなに奥深いとは思わなかった。」「いろいろ勉強させてもらった。」という感想に始まり、次

ぎのような質問や要望が寄せられました。「食品包装に使われる添加剤の安全性の確保はどのようにしているのか?」とか、「ドギーバッグの普及策はないか?」、「電子レンジで使える材料の表示はできないか?」、「ボトルの軽量化が進み、肉薄になりすぎキャップを開けるときの水がこぼれてしまって困る」など消費者ならではの視点に立った意見もあれば、子どもがいることから教育について興味を持って聞いていたという方からは、「プラスチックが理科の教科書で取り上げられるようになったとのことだが、プラスチックを知ることには家庭科でも応用できるだろうから、是非広めて欲しい。」との意見や「消費者啓発や子ども教育を共同してやってもらいたい」との提案もありました。

また、リサイクルや環境問題に関しては、「これまで、プラスチックは安全でないと思っていたが、リサイクルができるということで安心した。」や「プラスチックの抱える問題点についても聞きたかった。」という意見もありました。最近クローズアップされつつある問題点として、海洋ごみとそれが分解され小さくなったマイクロプラスチック、それに吸着した有害物質の生物濃縮の影響について研究されており、業界でも注視していることを説明させていただきました。また、何気なく捨てられたプラスチック包装容器などは川を通じて海に運ばれ、海洋ごみとなって世界中に拡散するので、ごみは捨てないようにと出前授業の中で話していることなどを紹介しました。

2012年12月に消費者教育推進法が施行されたこともあり、「プラスチックが安全で環境に貢献していくためには、どう消費者に理解を深めていただくかプラスチック工業連盟の活動に期待するし、消費者団体も協力する。」との意見もいただき、予定の3時間の懇談会があつという間に過ぎました。プラスチックについて理解を深めていただくためには良い機会だったと感じました。

■ 随想

◇マラウイ共和国旅行記（7）－環境－

一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

マラウイ共和国、上流から中流にかけての家には電気コンロやプロパンガスのコンロが設置されていますが、全世帯の半分以上が料理などの熱源には炭を利用しています。



スラムではありません。普通の市場です

市場は販売しているものにより区画が分けられ、生魚売場、魚の乾物売場、牛肉売場、鶏売場（チキンは肉ではなく、生きた鶏を丸ごと買って、自宅で捌くのが普通です）からはじまり、Gパン売場、携帯電話充電器売場まで、非常に細かく分かれています。

このような売場の中でもすぐにわかるのが炭売場。大量の炭が積み重ねられているだけでなく、炭の粉や破片が散らばるため地面もまっ黒。市場の中でもそこだけが黒いのですぐに分かります。

食事の準備の時間になると、どの家も炭を使ったコンロに点火をするため、住宅街では煙がもうもうと立ち込めます。普段、腕時計をする習慣のないマラウイ人。炭が焼ける臭いと煙がし始めたら、お昼だな、或は、夕食時だなと時計代わりにもなるよと話してくれました。

9月の終わり頃は乾季の終わりで草木も枯れ、燃えやすい状態になっています。

マラウイ共和国は農業国であり、多くの方は農業に従事しています。お米などを耕作する水田もありますが、ほとんどは畑を使った農業が中心です。この農業、焼畑が中心なので、農村部や山間部では、乾季で木々が枯れ、非常に燃えやすくなっているこの時期に一斉に火を放ちます。

私が南アフリカのヨハネスブルグから搭乗した飛行機からも、マラウイ共和国上空に差し掛かるとあちらこちらから焼畑の煙が立ち上っているのが見えました。操縦席からは、パイロットが「焼畑の煙によるスモッグで視界が悪いが、運行には問題がない」というアナウンスまで流れました。確かに、南アフリカ上空は非常にクリアでしたが、マラウイ共和国上空に入ると、雲とは異なる、上空全体が煙によるモヤモヤとした感じになりました。

家庭で使う炭を作るときに出る二酸化炭素、炭を使用するときに出る二酸化炭素、焼畑から出る二酸化炭素。これらの排出量を合算すると、恐ろしいものがあります。

ごみ、都市部ではきちんと回収され、歩道にもごみ箱が多く設置されているため非常にきれいです。しかし、田舎に行くとごみ回収システムそのものがなく、道路や空き地に積んであるだけ。当然、分別などもしていないため、プラスチックごみから生ごみまで、道路から空地にまで捨てられています。ごみの中では、放し飼いの鶏がエサをついばみ、乞食は金目のものと食べられそうなものをあさっています。

ちょっと話は逸れますが、乞食、当然、都市部にもいて、街中に置かれたごみ回収コンテナの中でごみあさりをしています。家庭や事務所では日本のようにごみ箱を指定の場所に出すのではなく、このごみ回収コンテナの中にごみを入れると回収するというシステムです。乞食はごみが出され、回収されるまでのわずかな時間で必要なものを見つけようと必死です。田舎では回収システムはないので、乞食ものんびりしています。都市部では金目のものや食べられそうなものは入手しやすいかもしれませんが、時間に追われる乞食って。。。

下水も完全に垂れ流し。

マラウイ政府としては、現在、上水（水道）の整備には力を入れており、まずは上水施設のない村に共同水道（水汲み場）を設置し、安全な水の供給を行うことを最重要課題にしています。このため、とても下水にまでは手が回っていないのが現状で、どの川も、まあ汚いこと。ごみやヘドロが溜まっているのは当然、トイレからの排水もそのまま流れ込んでくるので川のそばは異臭が漂っています。万が一、足を滑らせ、あの川に落ちたら。。日本だと、即入院し、連日、抗生物質の投与となるでしょう。

車の増加に伴い、排気ガスも問題になりつつあります。日本と異なり、輸入車であっても必ず日本と同じ右ハンドルでなければならないという規則があるため、ヨーロッパ車はほとんど走っていません。たまに見かけるヨーロッパ車も、どうやら日本からの日本向け車両を中古車で輸入したらしく、車内には日本語の注意表記などが残っています。



旧宗主国であるイギリスからの輸入車は全くと言っていいほど見られず、自動車販売店の人に聞くと、マラウイ共和国内で走行している車の9割は日本車（そのほとんどが日本の中古車）だということです。多くの車は日本から船便でタンザニア連合共和国か南アフリカ共和国に運ばれ、マラウイ共和国まで陸送されるとのことです。

幸い、輸入されている日本の中古車は厳しい排気ガス規制をクリアしていることと、車社会になったのが最近なので、比較的年式が新しい中古車が多いため、それほど排気ガスが汚いわけではありません。しかし、日本の中古車がこれだけ売れていることに目を付け、日本ではもう車検も通らないような古い車両や、現在の排ガス規制適合前の車両を安く買付け、マラウイ共和国内で販売していた日本の悪徳業者がマラウイ共和国内で逮捕されるという事件も起きています。

これまでの環境とはちょっと内容が異なりますが、マラウイ共和国では洗濯し、屋外で干していた洗濯物、取り込んだ後、必ず高温でアイロンをかける習慣があります。アフリカの強い日差しで乾燥し、清潔なはずの洗濯物全てにアイロンをかけるなんて、きっちりとした性格だなあと言うわけではありません。洗濯物を干している間に、ハエがとまり、卵を産み付けるのです。この卵を殺すために、高温でアイロンをかけるため、熱に弱い素材の衣類はほとんど売られていません。

(つづく)

今回は、(8)ーミニバスステーションは丘の上ーです。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

休日を利用して近隣の公園に出かけ、四季折々の風景、草木花、野鳥など観察しながらカメラに収めています。この春、小金井公園、武蔵野公園、野川公園を回った際に、辛夷ヨブシに似ているが白い花でなく、薄紅色の可憐な花が目にとまりましたので紹介します。花びらが6枚の辛夷ヨブシにくらべて12～18枚と多いのも特徴で、姫四手辛夷ヒメシテヨブシまたは紅辛夷ベニヨブシと呼ばれています。花言葉は友情、友愛、歓迎、自然の愛だそうです。



連休中のメルマガは休刊いたしまして、次回は5月14日(木)の発行となります。(UCH)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)、[メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp